

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
<p>① ライフステージにおける切れ目のない支援</p> <p>② 関係機関の情報共有、課題整理、連携</p> <p>③ サービス事業者等の質の向上</p> <p>※</p>	<p>◇こども連絡会全体会</p>	<p>P. 40 P. 41</p>	<p>第1回：6月16日開催 ・関係機関と情報共有、意見交換を行った。 ・事業所部会での課題について話し合いを行った。 【参加者 20名】</p> <p>第2回：2月9日開催 ・あさひ学園、児童発達支援センター、委託相談支援事業所の役割について 【成長記録ノートについての意見交換】 ・意図 ・記載項目改修案 ・現状の活用状況 と、今後有効活用していくために取り組むこと 【参加者 21名】</p>	<p>・各関係機関の取り組みや相談状況等の報告を行い、近況を互いに確認できた。 ・事業所部会から提示された課題（「放課後等デイサービスが学校に迎えに行く際の困り事」「相談員がいないケースの困り事」）について、学校と関係機関が相互の状況を知る場となった。この2点の課題を事業所部会で検討することとした。 ・3機関の役割を知ることにより、どこにいつ連携を取るとよいのか把握できた。 また、成長記録ノートについての意見交換により、活用の重要性が共有できた。</p>	<p>終了・継続・変更(※)</p> <p>終了・継続 → 同じ・変更</p>	<p>事業所部会で協議した課題と、その対応について把握できた。 今後も関係機関との情報共有・意見交換を行うことで、小牧市内の支援体制の把握や現状を知り、切れ目のない支援に繋げていく。</p> <p>成長記録ノート活用の課題を話し合い、ライフステージごとに繋げていけるようさらに深めていく。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き	◇事業所部会	P. 40 P. 41	<p>第1回目：7月18日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所の受け入れ状況や近況報告を行った。 下記2点について、グループで話し合った。「放課後等デイサービスが学校に迎えに行く際の困り事」「相談員がいないケースの困り事」 <p>【参加者 18名】</p> <p>第2回目：10月24日開催</p> <p>「支援が難しい児童への関わり方、外国籍の保護者への関わり方」についての事例検討を行った。</p> <p>【参加者 24名】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の現状を知る機会になった。 話し合ったことで、課題に対し様々なアイデアを出すことができた。(送迎では名札をつけることの実施、セルフプランでも他事業所との連携が必要) それぞれ事業所での取り組みや、関わり方などを知ることができた。 支援方針について、全く異なる視点で考えることも有効であると気付くことができた。 	<p>終了</p> <p>○継続 → ○変更</p> <p>同じ</p>	<p>事業所同士の情報共有、近状報告は今後も継続していく。</p> <p>それぞれの取り組みを知り自社にないものを取り入れていくことにより、サービスの質の向上に繋げていく。</p> <p>事例検討会は、今後もテーマを変えていきながら、児童への関わり方や、家族への対応などを事業所だけで抱え込まず、一緒に考えていけるよう継続していく。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き		P. 40 P. 41	第3回：1月23日開催 管理的職員意見交換会「あさひ学園、児童発達支援センター、委託相談支援事業所の役割を学ぶ」 【参加者 25名】	それぞれの役割を知り、今後はイメージをもって関わりを深めることができるとの声があった。また、切れ目のない支援のために必要な担当者会議を開く上で、特にセルフプランの方へのフォローの仕組みを確認することができた。ほかにも相談支援事業所との連携の方法や、取り組み等を知ることができ、このような場合は、管理的職員だけでなく、幅広い職員にも必要との意見があった。	終了 	スムーズな連携を図るため、他機関との連携方法を互いに知る機会を得ることで、新たな関わりができるように、意見交換を行う必要がある。 以前より課題になっている「支援が難しい児童への関わり方について」を新しい視点で関われるよう、外部講師を招いて、学べる研修を開催する。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
	◇事業所見学会		8月21日～8月25日 受け入れ事業所 【21事業所】 【参加延人数105名】 参加対象：保健センター、学校、保育園、子育て世代 包括支援センター、春日井児童相談センター	・児童発達支援事業所や放課後等デイサービスで取り組まれている療育について、また実際に利用している子ども達の様子を見学する機会はいへん有意義であった。併せて、学校での様子も聞くことができ、互いに顔の見える関係作りのきっかけとなった。	終了・継続 → 同じ変更	各事業所の特色や違い等がわかり、具体的にイメージすることができた。 よりスムーズに密な連携が図れるよう、今後も参加しやすく受け入れし易い実施時期や期間、頻度等を検討しながら継続していく必要がある。
※続き	◇はじめのいっぽ編集作成	P.40 P.41	◇はじめのいっぽ in komaki 制作委員会 第1回 6月22日開催 【参加者13名】 第2回 9月8日開催 【参加者13名】 第3回 1月11日開催 【参加者13名】	・修正項目の確認 ・内容(項目)別の担当委員の決定 ・作業工程の確認 ・各担当委員から提示された修正内容の共有 ・医療的ケア児に関する掲載内容の検討 ・2校目の確認 ・各機関のQRコードの掲載を追加することの協議	終了・継続 → 同じ変更	3月に完成し、4月に関係機関に配布する。 今後は支援が必要な児童の保護者に活用していただけるよう、関係機関へ配布していく。 内容を確認し、年に一度、小牧市と小牧市社会福祉協議会のホームページを更新する。 次回のはじめのいっぽの作成は4年後とする。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
	◇療育支援事業への協力(案内の配布)		<p>◇5月12日開催 「支援の必要な子を育てている家庭への支援～親子に関わるスタッフに望むこと～」 【参加者 30名】 あさひ学園主催</p>	<p>支援の必要な子どもに関わる事業所等が集い、「親子療育の家」の紹介や支援者としての心構えを学ぶことができた。</p> <p>地域で、誰もが安心して暮らせるように、支援者の役どころを改めて確認できる機会になった。</p>	<p>終了・継続・変更(※)</p> <p>終了・継続 → 同じ変更</p>	<p>事業所が支援方法等で悩む時に事業所内だけで解決しようとするのではなく、社会資源を知り活用したり、保護者にそれを提案したりすることも手段の一つであるため、支援の幅を広げられるような学びの場は今後も継続して必要である。また、地域との連携を意識して事業展開できるような働きかけも継続して必要である。</p>
			<p>◇7月13日開催 「支援の必要なお子さんの就学について～保護者向け説明会～」 【参加者 41名】 児童発達支援センターひろば主催</p>	<p>就学までの流れや困った時の相談先について知ることができた。先輩ママからのお話も聞くことができて、経験談から対応の仕方等を学ぶことができた。同じ境遇の方々と困り事や不安を共有し共感できたことは、とても心強いと多数声をいただいた。</p>	<p>終了・継続・変更(※)</p> <p>終了・継続 → 同じ変更</p>	<p>事業所等を利用されていない場合は、就学までの情報が保護者の方により届きにくく、十分な準備ができないまま就学となる。そのため、早く広く情報を得られる機会を提供することは重要である。今後も、ライフステージ別にテーマを変更して開催されることが望まれている。(児童発達支援センター2か所を中心に内容を検討予定)</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き			◇12月5日開催 「重度自閉症児への 関わり方について (学童期)」 【参加者 22名】 児童発達支援セン ターひろば主催	自分の気持ちや思 いを言葉にすること が苦手な児童に対 して、どのような支 援ができるのか、い ろんな方面から検 討し、支援につな がるアイデアを出 すことができた。「 今後の支援の参考 になった」、「関 係者と一緒に事例 検討会を行いたい 」という意見があ った。	終了・継続・変更(※) 終了・継続 → 同じ変更	令和6年度は、幼 児期のケースで、 保育園・幼稚園 と児童発達支援を 並用している児 童の事例検討を 他職種の関係機 関の方々で行っ ていく。
①障がいに関する理 解の促進	◇「支援が必要な お子さんのための ガイドブック」の 更新	P. 32	各事業所の内容の 確認と、新規事業 所のデータ作成を 行い、2月末に完 成。 各事業所、相談支 援専門員、関係機 関に配布した。	掲載内容を見直 し、新規事業所につ いても掲載したこと で、最新の情報を 提供することができ た。	終了・継続・変更(※) 終了・継続 → 同じ変更	令和6年度も、新 規事業所を含め て、継続して冊子 を作成し、障がい に関する理解の 促進、事業所の 周知に繋げてい く。 なお、次年度に 向けて、冊子を データ化してい くのか、このま ま継続して冊子 にしておくのか を検討する。

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更